

2021年9月13日(月)

豊中市伊丹市クリーンランドを訪問して  
参加者:大阪大学生8名、引率教員1名



1. 今日最も印象に残ったのは、廃棄物処理の規模の大きさです。豊中市と伊丹市のごみが集められているため、その量は多いと予想していましたが、想像以上の多さに非常に驚きました。また、可燃ごみについては24時間処分をしていると聞き、ごみの削減の必要性を痛感しました。ごみ処理施設を見学するのは初めてだったため、非常に有意義な経験をすることができました。
2. 先日は豊中市伊丹市クリーンランドを見学させていただき、ありがとうございました。私自身がこれまでごみ処理施設を見学したことがなかったので、とても貴重な体験となりました。今回の見学で、私はこれまでずっと消費者の目線でしかごみを考えていなかったことを痛感しました。つまり、私の中ではごみ処理は、ごみを出した時点で終わっていました。(ごみ処理施設の存在は知っていましたが…)これからは、処理する側の手間も考えて、ごみ分別を行うようにしようと思いました。改めて、ありがとうございました。
3. この度は私どもの訪問を快く受け入れて下さりましてありがとうございました。クリーンランドの見学では大規模な処理工程やごみの量を目の当たりにし、ごみ処理行政の重要性と3Rによるごみ削減の大切さに改めて気付かされました。意見交換会ではごみ処理やリサイクルの現状、豊中市の取り組みの成果について詳しくご教示頂き、論文を執筆する上で大変参考になりました。容器包装プラスチックのリサイクルを促進するためには自治体のごみ処理設備、財政状況、住民の協力を得るための継続的な周知が必要であるという現場の方々からの意見をお聞きし、論文の方向性が間違っていないことを実感できました。
4. 先日は、クリーンランドを見学させていただき、また、リサイクル政策について詳しく教えていただきありがとうございました。
5. 説明してくれた方が、明るくてとてもわかりやすかったです。また、リサイクルの現場をみて、どれだけの手間と費用がかかっているのかを実感しました。どれだけリサイクルができるのかは、処理場の性能にもよるということで、財政が厳しい自治体も多くいる中で難しい問題だと思います。なので、リデュースがまずは大切だと感じました。
6. 印象に残ったのはゴミを手作業で選別しているところでした。分別して集めているものの、そこからさらにいくつもの手間がかかっていると分かりました。普段、ごみは汚い、出したら終わりだから早く片付けてしまえと考えがちですが、その後に処理している人がいてそのおかげで普段の暮らしがあるということを考えて丁寧な分別を心掛けようと思いました。貴重な体験をありがとうございました。
7. 普段自分のごみを出す時、とりあえず分別してはいましたが、分別されたゴミが最終的にどうなっていくのかということ意識したことはありませんでした。豊中市伊丹市のすべてのゴミ

が一箇所に集まっているというスケールの大きさと、手作業によって間違っただごみが地道に取り除かれているということを知ると、分別をするということが、確実に人のため、世のためになっているということを実感しました。

8. ガイドさんの説明もユーモアたっぷりでわかりやすく、ごみ処理について大変深く学ぶことが出来ました。ごみが処分されていく過程を実際に見てみると、自身のゴミ捨での態度を改めようという気持ちになりました。しかし、思うだけでなく継続していくことが真に重要であるため、缶をすすぐ、ペットボトルをできるだけ潰すなどできることを続けていこうと思います。(特に充電式電池によると思われる火災が目の前で起こったことなどは、実感に強く影響しました。)
9. 本日は誠にありがとうございました。私が特に印象に残ったのは、排気ガスを法律よりも厳しい基準で監視している、抑制しているということです。プラやビンのリサイクルだけでなく、ガスについても環境に配慮しており、持続可能社会への意識を感じました。様々なコストと、未来や目に見えない環境から得る便益を天秤にかけることはとても難しいということもよく分かりました。環境や埋立地の限界などを考慮して、持続のために何が必要なのかを、個人としても考えていこうと思います。

#### 引率教員より

本年度は、ゼミの班が、ごみのリサイクル推進政策についての論文を書くことになり、リサイクルを率先して行っている豊中市の施設を訪問する機会を得た。豊中市の皆様には、見学および意見交換をする機会を与えていただきありがとうございました。このたび訪問をしてみて、リサイクルには、収集の仕組みはもちろんだが、加えて、受け入れるための施設および自治体の意識も重要だということがわかりました。このたび、訪問したクリーンランドは、焼却およびリサイクルがセットになった高度な施設であり、焼却もリサイクルもしっかりと行われていることを実感しました。むしろ、このような施設を持たず、リサイクルが進んでいない自治体の環境意識向上が大事だと感じました。今後も、この施設を活用し、環境にやさしく持続可能な豊中市でありつづけることを期待しております。

引率教員 大阪大学国際公共政策研究科教授 赤井伸郎